

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：32720

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03973

研究課題名(和文) 地域在住高齢者の社会的孤立に対する支援構築に向けた実証研究

研究課題名(英文) Empirical research on building support for social isolation of community-dwelling elderly

研究代表者

島田 今日子 (Shimada, Kyoko)

田園調布学園大学・人間福祉学部・講師

研究者番号：80406868

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：地域高齢者の社会的孤立の把握と支援構築を検証した。2015年、K市から提供の65歳以上の3417人を対象に健康と社会交流の郵送質問紙調査を実施し、返送は1918人(回収率56.1%)、社会的孤立452人(23.6%)だった。2016年～2017年に社会的孤立者に講座を3回実施、1回は紙媒体を送付した。参加者は57人だった。2017年追跡調査を1755人に実施、1192人(回収率67.5%)が返送、社会的孤立230人(19.3%)だった。講座に1回以上参加で社会的孤立脱出は23人(40.4%)、孤立維持は34人(59.6%)で支援は一定の効果を示唆された。今後講座内容と改善者の検証が必要である。

研究成果の概要(英文)：This study examined the social isolation tendency of community-dwelling elderly who tend to communicate less with others, and verified the development of support for them. In November 2015, a survey on health and social isolation was conducted by mail with 3417 people, excluding those aged over 65 years needing long-term care. Of 1918 people who responded (recovery rate 56.1%), 452 (23.6%) reported social isolation.

From September 2016 to June 2017, four programs were held for social isolates. There were 57 participants in the programs. In the follow-up survey in October 2017 with 1755 people, 1192 (recovery rate 67.5%) responded. There were 230 social isolates (19.3%). Of those who participated in the course more than once, 23 (40.4%) emerged out of social isolation and 34 (59.6%) remained socially isolated. The support had a certain effect. In the future, it is necessary to examine those whose support contents and social isolation improved.

研究分野：高齢者の心身の健康

キーワード：社会的孤立 支援

課題「地域在住高齢者の社会的孤立に対する支援構築に向けた実証研究」

1. 研究開始当初の背景

- 1) 地域在住高齢者の増加と共に介護予防対策は大きな課題となっており、社会的孤立は、早期からの要介護状態、早期の死亡、孤立(孤独)死等との関連が指摘されているが、有効な対策の報告はまだない。
- 2) このため、地域在住高齢者における他者との交流が少ない傾向の社会的孤立の心身の健康、生活状況、他者との交流状態などについて調査と介入、対象者の経年変化を検証する。

2. 研究の目的

本研究では地域在住高齢者における他者との交流が少ない傾向にある社会的孤立者の把握と、その社会的孤立に対する支援を実施し、その支援評価を実施して支援構築、経年変化を検証するものであった。

3. 研究の方法

- 1) 初年度(2015/平成27年) 郵送留め置き法の質問紙調査
- 2) 次年度(2016/平成28年) 社会的孤立への3か月に1回の支援(合計4回)
- 3) 最終年度(2017/平成29年) 郵送留め置き法の質問紙調査

4. 研究成果

- 1) 初年度(2015/平成27年) 郵送留め置き法の質問紙調査期間:2015(平成27)年11月~12月  
「社会交流と健康に関する調査」では、以下を質問した。

調査項目

問1	身体の状態 <主観的健康感・病気の有無・治療状態・直近1年の入院・痛み>
問2	自宅での役割の有無
問3	介護や子育ての主たる世話人かどうか
問4	地域情報の収集先
問5	知人からの集会や趣味の会の誘いで、参加する気持ち
問6	社会的孤立に関する尺度(Lubben Social

	Network Scale 6: LSNS6日本語版)
問7	生活機能:老研式活動能力指標 ~ (旧:東京都老人総合研究所/現:東京都健康長寿医療センター作成)、閉じこもり
問8	老年期うつ病評価尺度(Geriatric depression scale 15; GDS15)
問9	主観的幸福度
問10	アテネ不眠尺度(世界共通の不眠尺度)
問11	社会参加状況、日々の心掛け
問12	性別、誕生日
問13	世帯人数
問14	世帯状況
問15	居住年数
問16	教育年数
問17	収入のある仕事の有無
問18	暮らし向き
問19	認知障害
住所等	氏名、住所、電話番号(2年後の再調査に協力意思のある者)

全回答者の特性

<問12> 男性960人(50.3%)、女性940人(49.0%)、平均年齢75.4歳(年齢幅:65~94歳) 前期高齢者894人(46.9%)、後期高齢者976人(51.2%)だった。  
<問1-1> 主観的健康感:健康ではない60人(3.1%)、あまり健康ではない1196人(10.3%)、まあ健康1369人(71.8%)、非常に健康245人(12.8%)。<問3> 介護や子育ての主たる世話人である249人(13.1%)。<問4> 地域情報の収集先:かわさき市政だより1331人、全国紙の地域欄1159人、無料の新聞やチラシ1126人。<問5> 知人からの集会や趣味の会の誘いで、参加する気持ちなし[「ほとんどない」と「あまりない」の合計]742(38.9%)。<問6> 社

会的孤立450人(23.6%)。<問7 ~>生活機能：生活機能の低い群(得点0~10点)586人(30.7%)。<問7>閉じこもり16人(0.8%)。<問8>うつ傾向の疑いあり328人(17.2%)。<問10>不眠症疑いありの者388人(20.3%)。<問11-4>社会参加状況：ボランティアにほとんど参加しない1307人(68.5%)。<問13>独居307人(16.1%)。<問15>居住年数：半年~88年(20年95人、30年137人、40年171人、50年91人)。<問16>教育年数：6年未満7人(0.4%)、7~9年238人(12.5%)<問17>収入のある仕事：なし1468人(77.0%)。<問18>暮らし向き：大変苦しい13人(1.9%)、やや苦しい90人(4.7%)、ふつう495人(26.5%)。<問19>認知障害の疑い：時間や場所の取違えをしており、かつ周囲の人から物忘れを指摘されている52人(2.7%)。社会的孤立<問6>他者との交流の少ない傾向にある社会的孤立者(得点で11点以下の者)は450人(23.6%)だった。今後、支援や追跡調査可能となる住所記載あり406人(2016年の支援対象者)。社会的孤立は男性272人(60.4%)、女性176人(39.1%)、平均年齢75.4歳(年齢幅：65~92歳)、前期高齢者210人(46.7%)、後期高齢者229人(50.9%)だった。<問1-1>主観的健康感：健康ではない129人(6.4%)、あまり健康ではない73人(16.2%)、まあ健康307人(68.2%)、非常に健康33人(7.3%)、<問1-2>脳卒中あり10人(2.2%)、心臓病あり54人(12.0%)、癌43人(9.6%)、

糖尿病あり54人(12.0%)、腰痛あり133人(29.6%)、膝等の関節痛あり109人(24.2%)、病気がない者は73人(16.2%)だった(重複の可能性あり)。<問3>介護や子育ての主たる世話人である56人(12.4%)、<問5>知人からの集会や趣味の会の誘いで、参加する気持ちなし200人(51.1%)、<問7 ~>生活機能：生活機能の低い群(得点0~10点)288人(64.0%)、<問7>閉じこもり8人(1.8%)、<問8>うつ傾向の疑いあり151人(33.6%)、<問10>不眠症疑いありの者388人(20.3%)、<問13>独居95人(21.1%)全体に比較し、独居の割合がやや高い、<問17>収入のある仕事：なし353人(78.4%)、<問18>暮らし向き：大変苦しい17人(3.8%)、やや苦しい18人(4.0%)、ふつう79人(17.6%)、<問19>認知障害の疑い：時間や場所の取違えをしており、かつ周囲の人から物忘れを指摘されている18人(4.0%)。閉じこもり<問7の>週に1回以上は外出しているかに「いいえ」と回答した閉じこもりの該当者は16人(0.8%)だった。対象者は男性9人(56.3%)、女性7人(43.8%)、前期高齢者6人(37.5%)、後期高齢者10人(62.5%)だった。<問1-1>主観的健康感：健康ではない17人(43.8%)、あまり健康ではない14人(25.0%)、まあ健康5人(31.3%)、非常に健康0人(0%)だった。<問1-2>脳卒中あり2人、心臓病あり3人、癌0人、糖尿病あり1人、腰痛あり5人、膝等の関節痛あり3人、病気ではない12

人(12.5%)だった(重複の可能性あり)。  
＜問1-4＞この一年間の入院あり2人  
(12.5%)。＜問7～＞生活機能：  
生活機能の低い群(得点0～10点)16人  
(100%)。＜問8＞うつ傾向の疑いあ  
り151人(33.6%)。＜問10＞不眠症疑  
いありの者388人(20.3%)。＜問13＞  
独居1人(6.3%) 閉じこもりのほとん  
どが、同居世帯である。＜問19＞認知  
障害の疑い：時間や場所の取違えをし  
ており、かつ周囲の人から物忘れを指  
摘されている2人(12.5%) 何らかの  
身体の疾患があり主観的健康感も低く、  
日常生活に支障を抱えているため、家  
族と同居しており、閉じこもっている  
可能性が考えられる。

- 2) 次年度(2016/平成28年) 社会的孤立  
への3か月に1回の支援(合計4回)  
2016(平成28)年度は追跡調査に協力  
するとして、住所を明示した他者との  
交流の少ない傾向にある社会的孤立者  
402人へ、支援プログラムの案内を郵送  
した。プログラムに参加した者へ「こ  
ころの健康講座」を2016年9月～2017  
年6月に3か月に1回、合計4回実施した。  
大学を会場にした支援講座を3回、3月  
は支援講座の参加経路での事故予防と  
寒冷による外出意欲の低下など、寒冷  
や気候の変動、意欲を考慮し、自宅に  
て学習できるように1回は郵送にて地  
域包括支援センターの紹介、レターセ  
ットのペーパークラフト、塗り絵、コ  
ラム等を送付した。「こころの健康講座」  
では、初回の調査結果報告、他者交流  
がないことの課題と対策、ハッピープ  
ログラム(ポジティブ心理学を基礎と

した内容で、感謝・笑顔・散歩等を基  
にして講義を連続性の内容で実施)、五  
感健康法(顔のツボ刺激)、手足を動か  
せること、課題をグループで取り組む  
等の脳トレーニング、楽しく明るい話  
題のグループワークなどを実施した。  
また、毎回アンケートを取り、他者との  
交流を増やすための案などを記述し  
て頂く回を設ける、満足度を伺うよう  
にした。講座参加者は1回目9月42人、2  
回目12月36人、3回目6月42人であり延  
べ人数合計120人、実質参加者は57人だ  
った。

- 3) 最終年度(2017/平成29年) 郵送留め  
置き法の質問紙調査  
2017年10月に追跡調査を初回調査票返  
送時に2年後の調査に協力すると回答  
した者1755人に実施した。追跡調査票  
の回収後、調査票の回答状況のチェッ  
ク作業を行い、データ入力を外部に依  
頼した。1192人(回収率67.5%)が返  
送した。新規に要介護認定を受けた者  
が49人(2.8%)だった。回答者の平均  
年齢77.2歳(年齢幅：63～96歳)で、  
男性574人(48.1%)、女性582人  
(48.8%)、社会的孤立は230人(19.3%)  
だった。支援講座に1回以上参加した者  
で、社会的孤立から非社会的孤立とな  
ったのは23人(40.4%)、社会的孤立を  
維持した者は34人(59.6%)だった。  
支援は一定の効果があったと考える。  
今後、支援内容と社会的孤立が改善し  
た者の検証が必要である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

なし

〔学会発表〕(計 2 件)

島田今日子, 兪 今

社会的孤立者に対する有効な支援の方向性～生活機能が高くうつ傾向のない対象者に着目して～

日本健康心理学会第 29 回大会  
(2016.11.20)

島田今日子, 兪 今

うつ傾向がなく生活機能の高い地域在住高齢者における社会的孤立の特性

日本老年社会科学会 第 59 回大会  
(2017.6.15)

〔図書〕(計 件)

なし

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ

田園町府学園大学人間福祉学部社会福祉

学科介護福祉専攻

講師 島田今日子

[http://www.dcu.ac.jp/faculty/human\\_care/human\\_care\\_teachers/human\\_care\\_teachers\\_detail/data/279](http://www.dcu.ac.jp/faculty/human_care/human_care_teachers/human_care_teachers_detail/data/279)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

島田 今日子 (SHIMADA, Kyoko)

研究者番号: 80406868

田園調布学園大学人間福祉学部社会福祉学科介護福祉専攻 講師

### (2) 研究分担者

兪 今 (YU, Jin)

研究者番号: 40439063

財団法人公益財団法人ダイヤ高齢社会

研究財団 研究部 主任研究員

### (3) 連携研究者

( )

なし

研究者番号:

### (4) 研究協力者

安 順姫 (AN, shunji)

財団法人公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部

黒澤 有子 (KUROSAWA, Yuko)

財団法人公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 研究部